

都市公園再整備における地域住民の愛着と参加意欲に関する研究

森林・緑地管理学講座 花卉・緑地計画学分野
山田一輝

(背景と目的) 近年、価値観やライフスタイルは多様化し、少子高齢化により社会構造も変化し、都市公園に対する住民の要求も多様化している。全国の自治体では、公園の計画づくりや、完成後の管理運営に、積極的に住民に参加してもらおうと取り組んでいる(財団法人公園緑地管理財団編, 2000)。そうした取組に参加意欲をもつ住民がいる一方で、ワークショップへの参加者の少なさ、実際の計画への住民の意見の反映などの課題も指摘されている(松岡, 2001)。既往研究では、町内会やまちづくりなどの活動に熱心である住民は、地域への愛着が強く(鈴木・藤井, 2008)、都市の緑地への愛着が管理に対する態度に相違をもたらすこと(Ryan, 2005)などが明らかになっているが、公園への「愛着」と住民の参加意欲との関連は明らかではない。

本研究では、現在再整備が進められている札幌市月寒公園を対象とし、地域住民の都市公園再整備への意識の把握、公園への愛着が公園づくりへの参加意欲に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

(方法) 月寒公園は札幌市豊平区にある総合公園である。開設から約 50 年が経ち、施設の老朽化等の理由で 2008 年から再整備の計画策定が進められている。公園内での聞き取り調査やシンポジウムでの意識調査の結果も参考に調査票を作成した。公園からの距離と地区による意識の比較をするため、公園の周囲の住宅地に 6 つの調査区域を選定し、1,916 部を配布し、郵送で 556 部の有効回答を得た。

(結果) 回答者の月寒公園の認知度は 98.4%、利用した経験は 92.4%であった。再整備計画の認知度は 43.5%、住民参加の機会の認知度は 22.5%とあまり高くなかった。公園への愛着は、公園からの距離と地区により異なった。公園への愛着が低い回答者と比較し、公園への愛着が高い回答者は、再整備計画の認知度も高く、公園の計画づくり、公園づくりへの参加、公園の日常の手入れへの参加意欲も高いことが明らかとなった。

(考察及び結論) 月寒公園の認知度は高いことが示された一方で、再整備計画の認知度は低かったことから、情報提供や情報収集のあり方を検討する必要があるだろう。また、公園への愛着は公園づくりへの参加意欲に影響を及ぼすことが示されたことから、住民との協働による公園再整備を行う際には、それらの関係が存在することを想定し計画を進める必要があるだろう。

参考文献

- 財・公園緑地管理財団編(2000):「協働」による公園づくり読本 -住民とともに考える公園づくり-:大蔵省印刷局,東京,123pp.
松岡史展(2003):札幌市における公園整備時の住民参加の現状と課題:北海道大学農学院修士論文.
鈴木春菜・藤井聡(2008):地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究:土木計画学研究 25(2), pp357-362.
Ryan R.L.(2005): Exploring the effects of environmental experience on attachment to urban natural areas: Environmental and Behavior 37(3), pp3-42.